

学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和3年 2月 25日(木) 10:00~11:30
開催場所	WEB開催
出席者(委員)	委員長、副委員長、委員4名
出席者(学校)	校長、教頭2名、事務部長、課長補佐、首席4名、部主事4名、教務主任
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度 第3回府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 次第 (資料1) ・ 令和2年度 大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 委員名簿 (資料2) ・ 令和2年度 学校経営計画及び学校評価について(案) (資料3) ・ 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について(案) (資料4) ・ 令和2年度 学校教育自己診断の結果について (資料5) ・ Zoom使い方について ※メール等に添付し配付 (資料6)
備考	

議題等(次第順)
<p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成2年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) (2) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) (3) 令和2年度 学校教育自己診断の結果について(首席) (4) その他 <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事・児童生徒の活躍について(部主事) (2) 専修部の国家試験の見通しと新入学生の状況について(専修部主事) (3) その他
協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成2年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) (2) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) (1)(2) 併せて記載 ・ 1(1)のICT環境については、1月27日に中央教育審議会の答申がなされ、その中でICT機器の活用は非常に有効であるとされた。コロナ禍あるいは災害が起こったときの対応として、ICT機器を十分に活用できる環境をつくっていく必要がある。 ・ 大阪府でも小中学及び高等部も全員配付する計画となっている。今年度については、3月までに小中学部の在籍児童生徒の2/3にあたるタブレットを配付予定。校内のICT設備環境は、工事が終わっており、タブレットが入ってきたら使用できる状況である。 ・ ギガスクール構想では義務教育の小中学校が対象であるが、大阪府では高等部も含めている。小中学部の残り1/3と高等部のタブレットについても1人1台整備される予定である。

- ・本校でもICT機器の活用をさらに進めていく。
- ・（５）に新型コロナウイルス等の感染症対策を徹底するというを追加。
- ・（８）近隣マンションの方は入居完了。今のところ大きな問題はない。管理組合とも連携をしていく。
- ・２.について、今年度出来なかったところは、大阪北との連携を十分に進めていく。
- ・理解啓発については、本校のホームページを充実させていくことで、必要な所に必要な情報を届けられるようにしていきたい。
- ・３については、今年度、沖縄盲学校と小学部が国語・算数及び道徳で合同授業を実施した。互いの学校の子ども同士が話合うことで非常に学びが深まった。今後は、全国の視覚支援学校に向けて合同授業を呼びかけ、集団での授業を行うことによって子どもたちの学びを深めていくことが出来ないかと考えている。
- ・４. 社会に貢献する人材育成については、特に進路の部分（５）を追加。
- ・高等部の進学指導の充実を図る。

（委員）沖縄盲との合同授業は、どんな感じであったかや何をしたかを教えてほしい。

（小学部主事）今年度、小学６年生で教科の指導を受けている児童２名が、沖縄盲学校の小学６年生と合同授業を受けた。オンラインは初めてで模索しながら開始した。授業内容は、算数を同じ教室で授業しているかのように進めた。したがって、担任同士の連携がかなり必要であり、プリントを配付することや授業の進め方を事前に共有しておかなければうまくいかなかった。年度の終盤になってやっと軌道にのってきた。視覚支援学校はこの学校も在籍者が少ないため、いろんな学校と合同授業ができるのは、子ども達にとって良かっただけでなく、教員にとっても勉強になった。今後も何らかの形で続けていきたい。

（委員）ICT機器の活用は非常に大切なことと思う。他の授業の満足度等は90%にもかかわらず、なぜICTは少し低いのか。さきほどタブレットが足りないという説明があったが、それが原因なのか。

（校長）特に専修部の授業でICTを使うのは難しい部分がある。また、全盲者が多いクラスでは、ICTを活用することが難しい。ただ、今年は弱視だけのクラスで電子黒板をすごく上手に使って授業をされた専修部の教員もいる。学生からも高い評価が出ている。昔のように黒板とチョークだけで授業するのではなく、ICT等を上手に使っていく必要があり、教員の意識改革がある。また、今後は一人一台タブレットとなっていくため、タブレットをどのように使っていくか考えていかなければならない。

- ・（資料３）及び（資料４）が承認された。

（３）令和２年度 学校教育自己診断の結果について （首席）

- ・アンケートの回収率は、教職員が70%。保護者・保証人が82%。児童・生徒・学生が91%であった。評価集計方法は、小学部の児童に対しては3段階の評価で、「はい／いいえ／わからない」。小学部の児童以外はA～Dの5段階の評価で、「A とてもそう思う／B 少しそう思う」が肯定的な評価、「C あまりそうは思わない／D 全くそうは思わない」が否定的な評価、加えて「E わからない」と区分した。17項目の質問があるが、全体の評価の傾向は、保護者の肯定的意見は上昇し、否定的意見は低下した。

【報告】

（１）学校行事・児童生徒の活躍について （各部主事）

（幼小小学部主事）

10月に幼小フェスティバルを開催した。6年生の修学旅行は11月19日から20日に実施した。秋の遠足は12月2日に実施した。

どの行事においても、コロナ対策が重要となり、例年どおりとはいかず、すべて白紙に戻した状態から進めた。特に修学旅行に関しては、宿泊先の方にご配慮いただき、子ども1人に対して教員1人の部屋を用意していただいた。また、各施設の方には食事を自室で食べられるように広いスペースを用意していただいた。行く先々の方に配慮していただいた結果、実施することができた。

(中学部主事より)

音楽発表会、和太鼓発表会、体育の持久走の記録会を行った。

音楽発表会は、学年練習と全体練習を進め、3学年合同での演奏発表を行うことができた。

和太鼓演奏会は、7月から2週間に1回程度練習を行ってきた。本番では観覧者から大きな拍手と賞賛の言葉をいただいた。

運動会が中止になってしまい、体育的なことを保護者の方々に見ていただく機会をつくるため、参観日に持久走の授業を行った。全員が自己記録を更新して終わることができた。練習を積み重ねるなかで、しんどいことにも努力出来るようになってきたのが良かった。

コロナ禍のため、気を付けながらも様々な発表の場で、保護者や他学部の方々に見てもらうことができ、一人ひとりが成長し自信に繋がる機会となった。生徒集団が励ましあい、支えあうことのできる集団となってきたのは大きな成長だと感じている。

(高等部主事より)

学校行事では、高等部独自の発表会を行った。

3年生の修学旅行は、日程・行程を変更し実施した。

オンライン授業は、5月の休業期間中に実施した。また、行事欠席者に対するオンライン授業を実施も行っている。

卒業生は、本校の理療科や卒業訓練校、福祉施設等に決定している。

(専修部より)

家庭の経済状況による休学があった。3月に退学の方である。

基礎実習等で手洗い、消毒の徹底をしている。11月頃までは順調に進んでいたが、1月からは緊急事態宣言で臨床実習が中止になった。しかし、校内職員等の協力が得られ患者になっていただいた。柔整3年生が教育長表彰を受賞する予定。

(2) 専修部の国家試験の見通しと新入学生の状況について (専修部主事)

- ・ 専修部の卒業生は11名。求人そのものが例年の1/3程度で厳しい状況。
- ・ 新入学生は13名の予定。3月15日に追加募集を行う。

(3) その他

令和3年度第1回目の学校運営協議会は、7月上旬を予定。開催方法はコロナ禍の状況に応じて、オンライン開催、集合開催あるいは書面開催を検討する。

次回の会議日程

日時	令和 3年 7月上旬 (予定)
場所	府立大阪南視覚支援学校 会議室